

潤生園東部ホームヘルプサービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）			
議事録名：介護・医療連携推進会議			
日時	平成 30 年 4 月 11 日（水） 14:15～15:00	司会進行	書記
場所	みんなの家田島 地域交流スペース	W	HM
出席者	<input type="checkbox"/> A 様ご夫妻（ご利用者の家族） <input type="checkbox"/> B 様（国府津 12 区自治会 会長） <input type="checkbox"/> C 様（国府津 12 区自治会 副会長） <input type="checkbox"/> D 様（民生委員） <input type="checkbox"/> E 様（民生委員） <input checked="" type="checkbox"/> F 様（小田原市地域包括支援センターそが・しもそが・こうづ） <input checked="" type="checkbox"/> G 様（小田原市地域包括支援センターしもふなか） <input checked="" type="checkbox"/> I 様（小田原医師会訪問看護ステーション 管理者） <input type="checkbox"/> J 様（医療関係 潤生園訪問看護ステーション 管理者） <input type="checkbox"/> L 様（山近訪問看護ステーション ケアマネジャー） <input type="checkbox"/> M 様（有限会社なかはま商会 ケアマネジャー） <input checked="" type="checkbox"/> N 様（オギクボ薬局介護支援センター ケアマネジャー） <input type="checkbox"/> O 様（小田原市鴨宮ケアセンター ケアマネジャー） 同伴実習生 1 名 <input type="checkbox"/> H（潤生園東部総合センター 施設長） <input type="checkbox"/> K（潤生園ホームヘルプサービス 部長） <input type="checkbox"/> HM（潤生園東部ホームヘルプサービス 計画作成担当者） <input type="checkbox"/> W（潤生園東部ホームヘルプサービス 管理者） 参加者 14 名 <div style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>出席、<input checked="" type="checkbox"/>欠席</div>		
目的	介護・医療連携推進会議は、地域の連携をはかるため、定期巡回サービスの関係者や地域に住む方々に対して、介護サービス状況を報告して評価を受けると共に、必要な助言等をいただく機会として、6 ヶ月 1 回程度開催することになっています。		
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 3 月分活動状況報告書（第 3 号様式） ・平成 29 年度 運営状況実績表 ・事例発表 ・お知らせ・平成 30 年 8 月施行のご利用者の負担割合の見直し ・地域包括ケアシステム <div style="text-align: right;">以上、事前配付 当日配付</div>		
議題及び議事内容		議決事項	
1. 開会の挨拶（14：00～14：05）：H 施設長 <ul style="list-style-type: none"> ・開会にあたって、前任者退職に伴い新管理者 W の紹介 ・潤生園の平成 30 年度の方向性について、下記のように話されました。 ① ご利用者及び皆様が主役。ご利用者の自立支援を目指します。 ② ナイチンゲール KOMI ケア理論※1 を全社的に勉強し、推進していきます。 ③ 地域の皆様の信頼を獲得できるように努めます。			

- ④ 地域の皆様にもお越しいただき、働いていただいて、みんなで地域全体を支えていく組織を構築いたします。

2. 出席者のご紹介（14：05～14：15） ご参加者全員の自己紹介 上記参照

3. 活動報告及び運営状況説明（14：15～14：25）：資料参照、司会者より説明
別紙資料参照

- ① ご利用者 14 名の要介護度（平均要介護度 2.0）、男女別、世帯別、年齢別、新規件数（1 件）の紹介
② ご利用者の定期巡回の訪問回数系 726 回、随時訪問回数 16 回、コールの内訳等随時対応の回数の説明
③ 事故の状況の説明

4. 事例発表（14：25～14：35）：別紙資料参照、司会者より説明

- ① 定期巡回のサービスを行うことで、ヘルパーとご利用者及び認知症の奥様となじみの関係になり、ヘルパーが毎日訪問して、服薬・排泄・血圧等の確認を行い、看護師が定期的に訪問して全身状態観察及び食事や運動の指導を行うことで、奥様も含めて老々世帯全体を支えることができました。その結果、ご利用者及びご家族が他の人と係ることの好き嫌いが無くなった事例です。
② 定期巡回を利用の場合の料金の説明。
③ 訪問看護を利用した場合の料金の説明。
④ 定期巡回のご利用者の事例の列举。
⑤ 平成 30 年 8 月から、ご利用者負担が高所得者の場合、3 割になる資料。

5. 活動状況に関する評価及び主な要望、助言等（14：35～14：50）：ご参加者

- ① A 様（ご利用者のご家族）：独居のお父様の透析のお迎えに定期巡回のサービスを最近利用開始しました。以前は、透析の後ぐったりして、玄関先で倒れている時もあった。娘が行くと甘えてしまうこともあり、定期巡回のサービスをお願いしてから、安心しています。最近元気になったように感じています。
② B 様（自治会長）：この地域は、年をとってもみんな元気に暮らしている。
③ C 様（副自治会長）：昔からの人が多いし、家族もいるので、このようなサービスは頼みにくい。
④ D 様（民生委員）：要介護者は、4～5 人。みんな家族が近くに住んでいるのでなんとか生活している。施設入所の方やデイサービスを利用している方はいらっしゃいます。
⑤ E 様（民生委員）：田島周辺では、家族もいるので心配していない。独居の方も安心して見守りができている。

- ⑥ J 様（医療関係者）：1か月に一度訪問したり、ヘルパーから様子を伺って評価しています。東部のご利用者は認知症の方が多い。認知症があっても日中独居でも顔見知りのヘルパーが毎日訪問することで、ヘルパーから報告ももらえるので、安心している。
- ⑦ L 様（サービスに知見を有する者）：施設退所の後、訪問介護ではうまくいかなくて、病院退院後定期巡回のサービスをいれたら、安定してきた。
- ⑧ M 様（サービスに知見を有する者）：認知症があっても、インシュリンの注射を打つにあたり、定期巡回で、見守りや促しをしてもらえるので、安心しています。訪問看護も週1回で、うまく回っています。
- ⑨ O 様（サービスに知見を有する者）：ケアマネジャーとして、要介護1のご利用者2名が定期巡回を利用しています。そのうち1名は、80代男性で、思い立ったら何時でも外出したり、県営住宅がごみ屋敷のようになっていましたが、現在は清潔が保たれ、生活が安定し、ヘルパーさんが訪問時外出していても、携帯に電話を掛けるとすぐに戻ってサービスを受けています。血圧も落ち着いて、精神的にも安定してデイにも行くようになりました。
- ⑩ K（事務局）：最近ご利用者で、ターミナルのご利用者も増えています。潤生園ホームヘルプサービスでは、1日数回定期巡回で訪問し、訪問看護ステーションの看護師としっかり連携することで、在宅生活を支えています。お医者様の指示に基づき、お薬をしっかり飲むことで、症状が安定されているご利用者もいらっしゃいます。

6. 要望、助言に対する考え方（14：50～14：58）

- ① A 様（ご利用者のご家族）：看護と介護の違いは何ですか？
⇒W（司会者）：介護では、医療行為はできません。昔は、爪切りや体温・血圧測定も医療行為でした。介護保険法が改定されて、現在では、ケアマネジャーの指示に基づいて、血圧や体温等のバイタルチェックをヘルパーが行っています。ただし、ヘルパーは、測定はしても、判断することはできません。入浴等の判断は、看護師さんの仕事です。また、看護師は、医師の指示書に基づいて医療行為を行うことができます。
- ② B 様（自治会長）：コール機とはどんなもの？
⇒W（司会者）：ボタンを押すと24時間いつでもオペレーターと話することができます。もし、オペレーターにお声が聞こえない場合は、ヘルパーの訪問要請を行って、ヘルパーがご自宅にお伺いして、状況確認を行います。転倒などの危険があるためです。トイレに行くときもボタンをお持ちいただきます。ご利用者は、24時間安心して、在宅生活を送ることができます。次回の連携推進会議では、コール機をお見せする予定です

7. 次回開催予定日のお知らせ（14：58～15：00）平成30年10月

参考 ※1 ナイチンゲール KOMI ケア理論とは、構築した金井一薫の名前にちなんで、「Kanai Original Modern Innovation」の頭文字をとってつけられた呼称です。

KOMI ケア理論の全体像

- ・ 目的論：ケア（看護・介護）とは何か
- ・ 対象論：ケアの対象である人間を、“生活している人間”として見つめる
- ・ 疾病論：人体の構造や機能、さらに病気や症状をケアの視点で見つめる
- ・ 方法論：ケアワーク展開の道筋を示す
- ・ 教育論：専門職教育のあり方と方向性を解く
- ・ 管理論：組織・管理のあり方と方向性を解く
- ・ 研究論：実践の発展、また実践を豊かにするための研究のあり方と方向性を解く